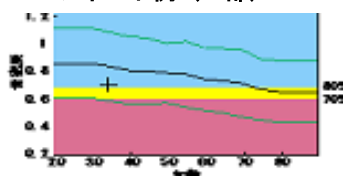


特集

平成21年10月に当院の骨塩定量検査装置が新しくなりました。検査時間も10分ほどに短縮され便利になりました。

レポート例 (一部)



今日測定した
大腸骨のBMDを測定しました

あなたの骨密度は
0.710 g/cm²です
若い人と比較した値は
82%です
同年代と比較した値は
85%です
骨密度: 0.710 g/cm² 骨質量: 2.400 g



骨密度測定	注意
コメント	今回の検査で、あなたの骨密度は、同年代若い人と比較した値も正常範囲内ですが、若くして骨質を失うために、日常生活を見直し心がけましょう。

高年齢者人口の増加により、骨粗鬆症による骨折予防の重要性はますます増加しています。骨粗鬆症とは、骨のカルシウムが減少し、骨がもろくなつて骨折しやすくなる状態を表します。近年、骨粗鬆症治療薬の進歩と普及により、骨折の危険性が確実に低下していますが、反面、早期発見および早期治療が大変重要といえます。これらを検査するために「骨塩定量検査」があります。

骨塩とは、骨中に含まれるカルシウムやリンなどの無機塩類(ミネラル)の総称をいい、その骨の強度(密度・ミネラル)をあらわすものです。骨塩量は年齢とともに、また過度なダイエットなどでも低下するため、気になる方は一度「骨塩定量検査」を受けられてはいかがでしょうか。各年齢別の標準値に対しどの程度の骨塩量なのか、わかりやすいレポートとして結果が表示されます。当院では人間ドックの一部として、また単独の検査として受けられます。

最新トピックス 骨塩定量検査・他

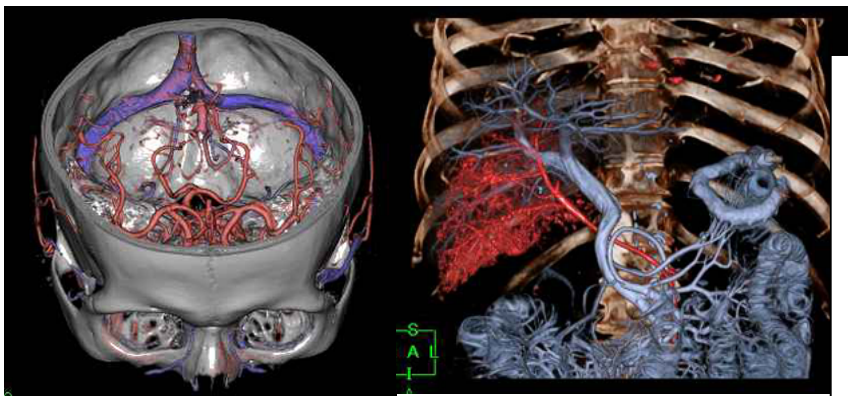
「骨塩定量検査」

骨塩とは、骨中に含まれるカルシウムやリンなどの無機塩類(ミネラル)の総称をいい、その骨の強度(密度・ミネラル)をあらわすものです。

最新の画像診断技術

「3次元画像処理」

CTやMRI検査で得られる画像は、体の断面(輪切り)画像のみでしたが、最近ではコンピュータ技術が発達し、立体的な3次元画像での診断も増えてきました。3次元画像処理装置は作成される情報は、現在の診療に不可欠なものです。病巣の広がりや血管の状態など複雑な情報がわかりやすく表示されるため、手術支援や患者様の説明などに利用されています。当院でもこれらのニーズにこたえるため、3次元画像処理装置を更新しました。新しい機能も増え、今までできなかった画像情報も提供できるようになりました。



新しい画像処理装置の機能

- 診断能の向上
 - サブトラクション機能
 - 体積測定
 - バーチャル手術支援など
 - CT・MRI画像フュージョン
- 時間短縮
 - 処理能力の高速化
 - 待ち時間の短縮

※新しくなった処理装置は、これらの画像を数分で作成可能な機能を有しています。応用範囲は広がり、今後の利用も増加すると考えています。